



## (統) (計) (用) (語) (の) (解) (説)

〔掛目〕 原料繭価格を現わす係数で、一般に「生糸1メを生産するに要する原料繭価格を掛目で呼んでいる」すなわち5,000掛ということは生糸1メを生産するのに必要な原料代が5,000円ということである。(1メ当繭代) = 掛目 × 糸歩(15%前後)なお掛目を取引当時の生糸相場から算定して、養蚕、製糸双方が協定して決定する。

〔完全保有農家〕 収穫した食糧から1年間の自家消費量(基準1人1日当り約4合)を差引いた残りを供出できる農家のことである。これに対し収穫が自家消費にも十分でなく、供出もできない農家を不完全保有農家という。これは転落農家ともいわれ、保有量は1人1日3.1合となっている。

### 編 集 室

●日ごとに寒さもきびしくなり、色づいた柿の葉もいつの間にか、一葉落ち、二葉落ちして今はほんの数えるほどしか残っていない。つるべ落しの冬の日も余りにも短く、私たちが間近に迫る年の瀬を控えて、慌しい毎日を送っている。あの洋服代や自転車代をどうして支払うか？子供たちだけには、何かお年玉を買ってやらなければならぬ！あの仕事は何かして片付けよう！などと私たちは何かと、細かいことに頭を悩まさなければならぬ。これは例年のことではあるが、やはり下級サラリーマンの悲哀かも知れない。しかしここで過去1年間の出来事をよく反省しながら、よい思い出だけを抱きしめて、他のことはキレイに忘れましょう。たとえ1杯の冷酒でも飲みながらね。そして平和な希望ある昭和31年を元気に迎えましょう。

●昭和30年は私たち統計マンにとっては、国調に明け国調に暮れたといつても過言ではないでしょうか？やはり5年ごとに1度の大調査だけあつて、それに要した経費と人員と時間は、実にぼう大なものであり、特に各市町村においては、さぞ大変苦労されたことと思います。又来春早々工業調査や国富調査、あるいは冬期基本調査などで忙がしくなることと思いますが、関係各位の御健康を心から祈つてやみません。

●先に国勢調査による本県の予想人口を懸賞募集したが、その入賞者の発表が行われ、瓜連町の今瀬サタさん他32名の方こそそれぞれ賞品が贈られた。この募集には国勢調査県実施本部の諸君も、多数応募されたが、残念ながら一人の入賞者もなく、誠に汗顔の至りです。「恐らく某氏のいうにはこれは余りにも豊富な経験と精密計算

(?)をしたためにかえつてかけはなれた数字になつてしまうのかも知らない？と。クイズの数字などというものはとらぬ狸の皮算用式に技巧をかえ過ぎてだんだんふくれ上つて来るのが常である。やはりここに科学的検討の必要が、しみじみ感じられる。私たち人間生活においても、余りにも技巧を加えたり、神経を使い過ぎたら、策を弄し過ぎると何事も失敗したり、孤立してしまうものである。

●本号では幸い統計審議会委員森数樹氏講演要旨を掲載することができたことは大きな収穫であつた。

●表紙の写真は下妻市郊外の砂沼(さぬま)であります。秋も深り、沼の水面は鏡のように静かで、今にも凍るような冷さを秘めている。とき折訪れる渡り鳥の鳴く声にも、冬近きを告げるように一珠の淋しさがこもっている。

### ■統計だより

- ☆11月15日……昭和30年国勢調査関係書類進達。
- ☆11月21、22日……関東甲信静ブロック国富調査事務打合議が千葉県で開かれ、柏原課長、大録係長、鈴木(芳)主事が出席した。
- ☆11月28日……茨城県調査統計連絡協議会の第9回定例会を統計館において開催した。
- ☆11月30日……鹿島郡調査員研修会が鉾田町で開かれ、山中課長補佐、大録、照山両係長が出席した。
- ☆12月2日……国富調査事務打合会議を統計館において開催。
- ☆12月8日……定例地方事務所調査課長会議を統計館において開催。
- ☆12月12日……定例各市統計主任会議を統計館において開催。